

色が人に与える心理影響

— 標識の配色から考える —

I 研究の動機

疑問1 人に何かを伝える時、色はどのようなはたらきをしているのだろうか？

→人に何かを伝えるもの……標識

疑問2 標識の色にはどのような意味があるのだろうか？

→標識の色には決まりがあるはず

……これを調べることで、校内ポスターや行事の案内、他教科で模造紙をつくる時などに効果的な配色を提案することが出来る。

II 研究の全体像

• 方法1：文献やインターネットによる調査

1) 標識の基礎知識

2) 配色について

• 方法2：アンケート

方法1で分かったような効果は本当に得られるのだろうか。また、色によって感じ方は違うのかをサンプルを用いてアンケート調査する。

• 研究全体のまとめと考察

III 研究の結果

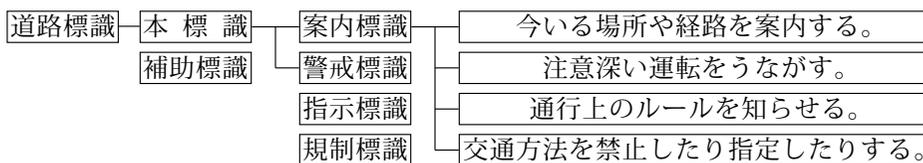
方法1：文献やインターネットによる調査

1) 標識の基礎知識

① 標識とは？

人への危害、および財物への損害を与える事故・災害を防止し、安全と健康に影響する対象および状況に急速に注意をひきつけて特定のメッセージについての迅速な理解を促すもので、国土交通省や、地方自治体が設置している。(JISハンドブック色彩)

② 標識の種類と色



このように、標識とは事故や災害を防止するために、行政の組織が設置するものである。

標識について調べて分かったこと → 色数が少ない

では、限定された色しか使われていないのはなぜか？

調べた結果

標識の色は「JIS」で定められている → JIS安全色彩

JIS安全色彩は全部で8色あり、それぞれの色に色の意味や使う場所などが定められている。また、この8色の中には道路標識には使われていない色もあるが、他の様々なところで危険や安全を示すために使われている。

…それではJIS安全色彩 → 何のためにあるのか。

ここまで調べて、標識には「誘目性」「視認性」「識別性」の3つが必要だとわかった。

- 誘目性…色の目立ちやすさを示すもの
- 視認性…色の見やすさを示すもの
- 識別性…色の判別のしやすさを示すもの

しかし、黄色と黒の組みあわせは視認性が高いが黄色の中でもオレンジ色のようなものやレモン色のようなものがある。 →それではいけない！

そこで、この3つの基準を満たす色を科学的に研究し、具体的な数値に表したものが・・・『JIS安全色彩』

このJIS安全色彩は、6色の安全色と2色の対比色（安全色とあわせて使う色）からなっている。

色名	意味	使用例
赤	防火 禁止 危険 停止	消火器などの防火標識 立入禁止などの禁止標識 危険箇所を示す赤ランプ 緊急停止のボタン
黄赤	危険 明示	機械の安全カバー 救命いかだ、救命具
黄	警告 明示 注意	爆発物などの警告表示 駅舎、改札などの出口表示 信号の“注意”

色名	意味	使用例
緑	安全 進行	安全旗、非常口の表示 信号の“進行”
青	指示 誘導	指示を表示する標識 位置を示す誘導標識
赤紫	放射能	放射能に関する標識
白	通路	通路の誘導標識
黒		標識の図記号、文字

ここには、実際に定められていることのほんの一部しか載せていないが、JISでは安全色彩について様々なことが細かく決められている。

また、JISではこのようにほかにも様々なことが定められている。

- 標識の細かい寸法やデザイン（枠線の太さ、内容に対応する図記号 他）
- 伝えたい内容による配色や、決まった色が占める割合
- 伝える内容や目的による細かい種類（通路誘導標識、消費者用警告図記号 他）

2) 配色について

① 配色の基礎知識

配色 → 色の組み合わせといえる
 だが、何も考えずに適当に色を組み合わせることは「配色」とは言えない。
 それぞれの目的に応じて工夫して適切な色を決め、組み合わせることを「配色」という。

配色する上で注意すること

- 彩度 → 色の鮮やかさ
- 明度 → 色の明るさ
- 面積 → その色が占める部分
- 色調 → 画面全体の色の雰囲気

②配色の効果

配色を工夫すると様々な効果を得ることができる。

●字や絵、模様を見やすくする。

配色で重要なこと

→色の可読性（見分けやすさ）

このように、配色を工夫すると見え方が大きく変わる。

	見やすさ	可読性	目の負担	
青と紫	×	×	△	◎とてもある
黄と黒	×	○	○	○ある
赤と緑	×	×	◎	△少しある
白と黒	○	○	×	×無い

方法2：アンケート

1) アンケートの概要

4種類の標識や案内のサンプルを作り、安全色彩に基づいて配色を変えどれが最も印象に残るかなど聞き取り調査をした。また、4種類のサンプルとは、案内・危険・禁止・連絡だ。また、初めの3つはそれぞれ道路標識の案内標識、警戒標識、規制標識に対応している。

①案内（校内掲示）——案内標識に対応

③禁止（ケータイ禁止）——規制標識に対応

②危険（クモ注意）——警戒標識に対応

④連絡（中間発表の連絡）——総合的な内容

2) 色の選択

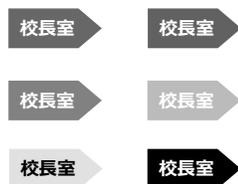
今回のアンケートは同一デザインのを以下のそれぞれの色でつくった。

赤	7.5R4/5	青	2.5PB3.5/10	これはJIS安全色彩とそれを数値に表したものだ。また、紫を使っていないのはプリンターによって色が変わるからで、白と黒は、「無彩色」というくくりで1つにまとめた。
黄赤	2.5YR6/14	白	N9.5	
黄	2.5Y8/14	黒	N1	
緑	10G4/10			

3) サンプルの作成と質問の内容

①校長室の案内（校内掲示）

「この中で案内として最も適切だと思うのはどれですか。」



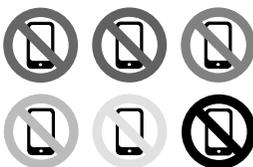
②クモ注意（警戒の呼びかけ）

「この中で最も触ってはいけないと思うのはどれですか。」



③ケータイ禁止（禁止事項を伝える）

「この中で最もケータイを使ってはいけないと思うのはどれですか。」



④中間発表の案内（重要事項の連絡）

「この中で最も印象に残るものはどれですか。」



4) アンケートの結果

アンケートの概要：実施日 8月9日～8月23日

実施人数 府中生 20人

府中の先生 4人

親戚 12人

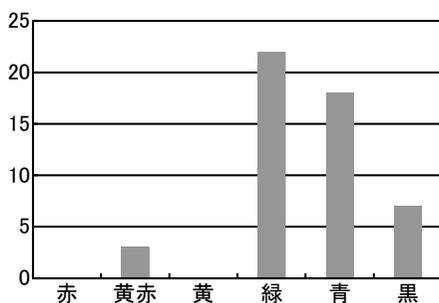
その他 14人 合計50人

方法 サンプルを見せてアンケートをとる。

アンケートの結果

質問1：案内

結果：青や緑など案内のイメージがあるものが多かった。また、赤や黄色などは少し怖いという意見があった。

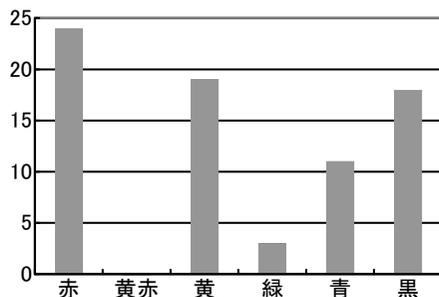


[考察]

青と緑が多かったことから、この2色は案内表示のイメージがあり校内掲示としても適切なのではないだろうか。

質問2：危険

結果：黄色や赤などJISで注意、危険と定められた色を選んだ人が多かった。

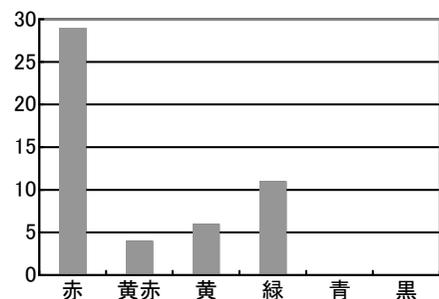


[考察]

この結果から黄や赤は見る人が注意したり危険だと思う色なのではないだろうか。

質問3：禁止

結果：質問2と同じく赤が最も多かったが、黄色が少なかった。

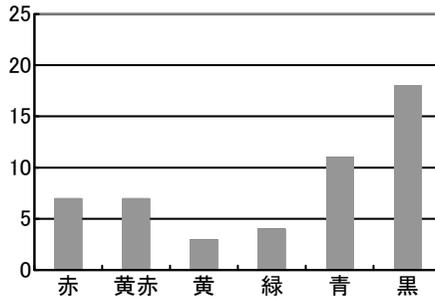


[考察]

赤はJISでも禁止を表す色と定められていて様々なところで禁止という意味でつかわれているため、禁止=赤というイメージがあったのではないかと。また緑は周りの人の為というようなイメージがあったのではないだろうか。

質問4：連絡

結果：ほかのものの様にいくつかの色に集中せず、様々な色に散らばっていた。



〔考察〕

決まった意味がなく特定の色のイメージがなかったため黒を選ぶ人が多かったのではないだろうか。

5) アンケート全体の考察

今回のアンケートで分かったこと

- ① JISで定められている意味と実際にアンケートをとって得られた結果はほとんど同じ。

これはなぜだろうか？

- 例えば赤なら、赤は人に「禁止」「危険」などのイメージを連想させる色だから。
- 赤は「禁止」や「危険」を表すものによく使われているため自然とそのイメージが定着しているから。

という2つの考え方ができる。

- ② 連絡のサンプルではまとまった答えは得られなかったが黒が多かった。

これはなぜだろうか？

- 連絡のサンプルに限らず特定の意味（禁止、危険etc…）がないものは連想する色がないため、同じく特定の意味のイメージがない黒が最も適切であるように思えたからではないだろうか。

- ③ 案内のサンプルでは多少バラつきがあったが青と緑が多かった。

これはなぜだろうか？

- 青や緑に白の文字（図）は遠くでも見やすいため案内に適切だから。
- 普段なにげなく見ている案内を示す看板や標識などに青や緑がよく使われているため「案内には青や緑が適切だ」というイメージが自然と定着しているから。

という2つの考え方ができる。

IV 研究全体のまとめと考察

この研究を通じて分かったこと

1 標識は緻密に考えて作られている！

JISで定められていることを調べていて標識は形と寸法、全体の配色など、それぞれの意味がきちんと見る人に伝わって、「危険から身をまもる」や、「正しい方向に行く」などの目的を果たせるよう、緻密に計算されていることが分かった。

また。標識の中で決められた色が占める割合

- 標識を設置する場所や高さ
- 標識の素材による配色や色の違いetc…

など、私たちが普段気にしていない細かいことまですべて定められている。

2 配色には様々な効果がある！

配色を工夫すると様々な効果を得ることができる。

例えば、少し色を変えるだけで図の見えやすさが大きく変わる。(可読性)

他にも… ◦ 周りの色が変わると色が違って見える。(色の対比)

- 色味の似た色を使って配色すると画面に統一感が出る

など、様々な方法で効果を得ることができる。

3 色には心理効果がある！

JISでは全8色にそれぞれの意味が定められている。

アンケートで調べた結果

→赤は禁止や危険、黄は危険、青や緑は案内などの心理効果が得られることが分かった。

これはJISで定められていることにほとんど対応していた。

例えば赤なら赤という色が「禁止」「危険」を連想させる色なのか、「禁止」や「危険」を表すものに赤がよく使われているために赤を見ると「禁止」「危険」を連想するのかがわからなかった。

これを追究するのが今後の課題だ。

V 参考文献

『高校美術1』, 日本文教出版, 平成24年

『新美術表現と鑑賞』, 開隆堂, 平成24年

西川好夫, 『色彩心理の話』, 清水弘文堂, 昭和51年

星野昌一, 『色彩調和と配色』, 丸善株式会社, 昭和44年

南雲治嘉, 『色と配色がわかる本』, 日本実業出版社, 平成24年

近江源太郎, 『色彩心理入門』, 日本色研事業株式会社, 平成15年

『JISハンドブック61色彩』, 日本規格協会, 平成24年

『道路交通局サイト』

<http://www.mlit.go.jp/road/sign/douro/wscomp.html> (平成25年8月4日閲覧)